令和４年度
(2022 年度)

学校関係者評価報告書

令和４年（2022 年）　４月　１日から
令和５年（2023 年）　３月 31 日まで

令和５年（2023 年）７月 13 日

学校法人吉田学園
吉田学園医療歯科専門学校

■令和４年度　学校関係者評価について

〈説明〉

医療系専門学校の社会的責任を果たすため、本校の校訓や教育目標、教育実績などの実態と照らし合せ、自らの教育研究活動等の状況を自己点検、自己評価し、現状の把握・認識に努め、課題や改善を要する点などを検証し、教育の質・水準の向上、学校関係者への報告によるガバナンスの改善につなげるとともに組織的継続的な取り組みを図り学校運営力の向上に努めていくことを目的に実施する。

１．実施日時

令和5年7月13日（木）18：00～18:45

２．実施場所

吉田学園医療歯科専門学校2階会議室

３．実施方法

（１）実施組織：学校関係者評価委員会

〇評価委員：

菊池　恒　　札幌狸小路商店街振興組合　理事・会長

小島　修二　学校法人創成学園　札幌創成高等学校　校長

八若　保孝　北海道大学大学院歯学研究院　副院長

松原　明勇　石狩北部地区消防事務組合 石狩消防署警防課 救急担当

〇学校関係：

河原　範毅　吉田学園医療歯科専門学校

吉田　克彦　吉田学園医療歯科専門学校　副校長

三上　剛人　吉田学園医療歯科専門学校　副校長補佐

（２）評価基準：文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠

（３）評価方法：令和４年度学校運営・教育活動実績報告書に対する学校関係者評価。

４．評価項目

次の１１項目について実施

（１）教育理念・目標

（２）学校運営

（３）教育活動

（４）学修成果

（５）学生支援

（６）教育環境

（７）学生の受け入れ募集

（８）財務

（９）法令等の遵守

(10) 社会貢献・地域貢献

(11) 国際交流

５．評価項目に対する評価

（１）４段階で点数評価しました。

４：適切　　３：ほぼ適切　　２：やや不適切　　１：不適切

（２）委員会で提出された意見や質疑、提案事項を記載

① 項目３教育活動に関する質問

（委員からの意見）

・学園で行っている研修会に、医療歯科の教員はどれ位参加しているのか、また研修後に実際に活かしているかどうか検証を行っているかとの質問があった。

（学校より回答）

・ほぼ全員の参加している。Web 上ではあるが、グループに分かれてディスカッションし事例検討を行っている。

（委員からの意見）

・事例検討は大切だと思うが、それを本当の現場で使えているのか、どう使えるのかが重要である。学園全体でやられているのであれば、実際に使ってどうだったか、上手くいったところはどこかなど全体で情報交換することが良いとの意見があった。

② 学習環境に関する質問

（委員からの意見）

・教務システムにあるルーブリック成績評価について、学生側と先生側の評価のレーダーチャートは重なって出るのかとの質問があった。

（学校より回答）

・現在は全体的には出来ておらず開発中の一つである。

（委員からの意見）

・見方によって評価は違うため、学生の気づきにつながる。出来るだけタイムラグを無くして学生とディスカッションすべきであり、その取り組みが学生の伸びになる。また、今の学生は他者評価に慣れていなく特に医療関係者は患者さんからの評価が大変厳しいので今のうちに慣れておく方が良い。上手く活用できればより良いものになるので、是非実現してほしいとの意見があった。

③ 項目４学習成果に関する質問

（委員からの質問）

・３年生の退学の原因は何か。あと少しという時に本人も家族の方ももったいないだろう、と原因についての質問があった。

（学校より回答）

・主に実習先とのトラブルやメンタル面が要因であった。

（委員からの救急救命学科の就職に関する質問）

・専門学校に進学して資格を取得する方法と、消防署に決まってから研修を受け資格を取得する２種類の方法があるが、どちらが良いのか大変気になるとの質問があった。

（学校より回答）

・国家資格を取得してしまえば９割以上が３年以内に就職できている。新卒採用の場合、公務員試験を受験する段階で自分の希望先に募集が無いケースや、地方に就職すると離職してしまうケースなどがあり、まずは国家資格を取得し３年以内に就職を決めていくという事例が多い。

（委員からの質問）

・　卒業後３年以内には就職できるということを、学生は入学して初めて知るのかとの質問があった。

（学校より回答）

オープンキャンパスなどでも参加者に伝えており、大半の学生は入学前に知って

いる。希望している就職先の空きを待つという積極的就職浪人や、卒業後に本校での実習アシスタントとして雇ってもらい一緒に勉強して次の試験にチャレンジ出来るような対応も行われている。

④　項目３教育活動、学生の環境に関する質問

（委員からの質問）

・１年生で退学していくというのはメンタル面に不安を抱えたまま医療系に進学してしまったというミスマッチがある。医療系はコミュニケーション能力が無ければ出来ない仕事であると思っている。高校の２年生以下は全教科でグループワークが必須となっており意識出来るようになってきているが、それ以上の学生はまだ厳しく、グループワークが苦手な学生も多くおり進学して意思表示出来ているのか不安である。メンタル面やコミュニケーション能力向上等に何か特別な取り組みを行っているのかと、高校の現状の説明とともに質問があった。

（学校より回答）

・救急救命学科では青少年科学館での研修や山登りなどを取り入れたり、他学科は動物園に行ったり文化活動に触れる活動を行うなど、学生間のふれあいの場を早い段階で設けるようにしている。授業ではグループワークを多用しているが以前に比べてグループワークが苦手な学生も多く、時間をかける必要があると実感している。

今年度は研修旅行を全学年対象に実施、３５０名と多くの学生が参加したことを紹介した。

⑤　新型コロナウィルス感染状況に関する質問

（委員からの質問）

・コロナ感染症も５類になり以前に戻りつつあるが感染者は全体的に増えている。一部の中小企業団体でもクラスターになってしまった。体調が悪くても行動制限もせず病院にも行かないなど、隠れコロナも多くいると感じている。また、札幌では在宅勤務もほぼ無くなり社会全体的に元に戻って来てはいるが、大人が出かけなくなった等、生活習慣や社会構成も変わってきている。そうした中で、吉田学園の状況と地域活動の取り組みの２点について質問があった。

（学校より回答）

・学校保健上、感染症の報告義務があることから感染者についてはある程度把握できており、感染者は出ているもののクラスターになるまでの感染状況になっていない。地域活動面で学園祭については学生主体で実施する方向で動き始めており、９月末～１０月上旬を計画しているところである。

（委員からの質問）

・今後入学してくるコロナを経験した子どもたちの感覚は元にもどるのだろうかとの質問があった。

（学校より回答）

・多様性が広がった。学校に行きたいという学生とそうでは無いという学生がハッキリしてきたような印象である。

（委員からの意見）

・通信制の高校が札幌だけでも十数校と増え大変な人数になっている。学校に行きづらくなると通信高校へ進学するが、卒業後は大学等に進学しない状況の方が多く、どのように就職していくのか大変心配であるし保護者の方も困っているようだ。

・吉田学園は医療系だから進学しなければ資格もとれないし患者にも向き合えない。まずは、身体を慣らしなさい、コロナ前に戻しなさいと指導していくしかない。

クラスが仲良くなり、友達が出来て登校出来ていれば頑張れる。孤立してしまうと落ちてしまう学生が出てしまう。

⑥　学習以外の学校の取り組みに関する質問

（委員からの質問）

・実習以外にボランティアで出かけるなど学校の取り組みはあるかとの質問があった

（学校より回答）

・学校全体では「アオハル応援プロジェクト」についての取り組みと吉田学園学生寮の中でコミュニケーションを取っているようであること等を紹介した。

６．その他

（1）以下令和４年度　学校自己点検・評価要約です。詳しくは令和４年度　学校自己点検・評価を併せてご覧ください。

項目１　　教育理念

・項目評価 4.0

・特に課題はなかった。

項目２　学校運営

・項目評価 4.0

・特に課題はなかった

項目３　教育活動

・項目評価 3.6

・一つの学科で教員の確保はできたが、教員としての経験が浅いことから育成が課題であった。教員研修会への参加・促進、実際に行う授業や実習の計画案についてアドバイスを行う。

項目４　学修成果

・項目評価 3.4

・就職率に関して、目標に達することが出来なかった学科が存在した。また、国家資格未取得者への就職に課題を残した。国会資格未取得者への対応は進路の希望調査を早め、本人の意向に沿うよう相談できる環境を整える。

・国家試験合格目標に達することが出来なかった学科が存在した。合格率が大幅に向上した学科もあるが、更に向上を目指す。基礎学習から国家試験対策まで継続して取り組む仕組みづくりと行う。学生の習熟を把握し ICT 活用や時期、スピード、方法を吟味し対処する。

・様々な理由により学習継続が困難な学生も多く、進路変更による退学も増加し目標を達成できなかった学科があった。学習の負荷軽減を考えステップアップを考えた教育の工夫を行い、早期からの職業観の醸成を図り、モチベーションの維持に繋げる。また、複数の教員で情報共有を行い、保護者とも連携、退学・休学を未然に防ぐ対策をする。

項目５　学生支援

・項目評価 4.0

・特に課題はなかった

項目６　教育環境

・項目評価 3.6

・タスクシフトにより業務拡大した学科において、関連図書の不足があった。新刊情報をつかみ関連図書を購入し蔵書に加える。

項目７　学生の受入れ募集
・項目評価 4.0
・特に課題はなかった。

項目８　財務
・項目評価 4.0
・特に課題はなかった。

項目９　法令等の遵守
・項目評価 4.0
・特に課題はなかった。

項目１０　社会貢献・地域貢献
・項目評価 4.0
・特に課題はなかった。

項目１１　国際交流
・評価対象外

以上